慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	市民的国民経済学と社会主義的国民経済学との接近
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	三田学会
Publication year	1911
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.5, No.2 (1911. 2) ,p.192(74)- 204(86)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19110215-0074

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

る可し。(完)

市民的國民經濟學と社會主義的國民經濟學との接近

高橋誠一郎

(八)

加之、ベルンスタインはマルクスの所謂「株主等は遊惰安逸に耽る者の新しい一階級を形成するものである」との思想を以て毫も重要視するに足らざるものと看做してゐる。彼は「あらゆる株主を以て悉く皆遊惰安逸を貪る者と爲すの非なる」を認め、縱し又彼等が悉く皆然りとしてもマルクスの學說は何等之が爲めに確證せらるゝとなかる可きを認めんとして居る。ベルンスタインは此點に關して能く實際の事情と適合した哲理的の概括論を表明してゐる。乃ち左に之を引用する。曰く「株式は啻に資本たるに止らず、最も完全なる形態を備へた資本である、換言すれば最も崇高なる形態を有する資本とも唱へることが出來る。株券は實に一國民若しくは社會全般の節約に由つて常に本業にのみ孜々として執掌することを免れた勞働の餘剩に對して振出された手形である。卽ち所謂可動資本である。而して安逸遊惰唯だ配當金のみに衣食する株主の數が次第に增加して、此に彼等の數個大隊とも稱す可きものを形成するとしても、然も尙ほ彼等が單に存在することの爲めに、彼等の經費支出の爲めに、將た又た社會上彼等を圍繞する幾多の事物の重要であるが爲めに、彼等は社會の經濟的生活上最も有力なる一要素を形成するものである。「株式」は企業集中の傾向が破却し去つた社會的階段の中間に位する數個の踏段を再び建設するものである」と。

更に株主等が一團として攻擊された安逸怠惰に就いて尙ほベルンスタインの所言を敷衍して見ると、株券や債券は本業に從事して居る者をして能く人間の生活や世界の進步に取つて頗る重要な事業に關與することを得せしむる所以の者である。株主や公債所有者の大多數は概して謂ふと安逸遊惰の生活を送るものではなくして、却つて孜々營々として自家の職業に盡瘁しつゝある者である。元より彼等の幾分は遊惰の民であつて、或は世襲の懶民と稱す可き者もあるであらうが、然も彼等の數がさまで過大ならず、且つ又人爲的法律制度の保護に由つて彼等自身の失錯の責罰を免れる樣なことが無かつたなら從來の經驗に徵して毫も呪ふ可きことでないのである。閑暇のある階級がなかつたと假定したならば、人世を修飾する諸般の藝術は蓋し發達しなかつたであらう、而して又社會全般の福利を增進す可き幾多の發明は今日尙ほ未だ之を聞くこと能はずして或は永遠に世に出づるの機なくして終つたであらう。

現存の社會制度の下に於ける生產の實際的性質を仔細に攻究する時は又現代に於ては一部の「富人」若しくは「資本的貴族」の手に歸す可き生產物の高は巨大なるもので且つ其割合は常に增加しつつあるものであるとの社會主義者の主張の當に破壞せらる可きことを知るに至るのである。此點に於てベルンスタインは次の如き斷案を下してゐる曰く『近世に於ける生產業の主要なる特徵と認む可きは偉大なる勞働の生產力增加である。其結果は。消費貨物及び商品の全產額にも亦少なからざる增加を見るに至るのである。而して是等の財貨は如何に處分せらるゝのであるか、若くは更に精密に謂ふならば產業に從事せる勞働者が其取得する勞銀の高に制限せらるゝが故に彼等が自ら消費し得る限度以上に生產した所謂餘剩生產高は如何に處分せらるゝのであるかとの疑問を提出しなければならぬ。所謂資本的貴族は能く一般に見認められたるよりも十倍も廣大な胃腑を有し、且つ又彼等が實際上有するよりも十倍の僕婢を使雇し得るかも知れぬ、然しながら事實左樣としても彼等の消費額は之れを實際國民經濟上に於ける全生產額と比較する時は殆ど重きを爲すに足らぬのである。大資本的生產の第一の特徵と認む可きものは

多數生產であることを忘れてはならぬ。果して然らば此資本的貴族や其家內の者共が消費するとの出來ぬ商品は如何に處分せらるゝのであらう。若し此等の商品が何等かの方法に由つて貧民階級の手に達せぬものとしたならば、そは他の階級に吸收せられなければならぬ。資產は次第に一部少數者の手に集積せられて資本家の數愈々減少すると共に貧民階級の幸福亦之と同時に增進するか、然らざれば幾多の中流階級が存在して居らなければ常に增加して止まない生產物の吸收せらる可き途はないのである」云々と。是れ實に毫も反駁の餘地を見出すこと能はざる正々堂々の論である。

株式會社の株券や債券發行の爲に生じた資本の分割が若し果して企業集中の爲に破却せられた社會的階段中數個の踏段を再び修復するの効果を有するものであるとしたならば、あらゆる產業は悉く皆集中せられて企業は終に消滅するに至る可きものであるとの思想は全然其根據を失はなければならぬ。斯くてマルクスの產業集中說は既に業に破壞せられたのであるが、ベルンスタインは其書中に社會上の財富が生產せられ分配せらるゝ各種の產業を論ずるに當り、更に此マルクスの豫言を否定す可き例證を擧げて居る。彼は工場檢查官の報告を分析して他の歐洲諸國に比して遙に企業集中の傾向大なる英國に在つては各個の工場に使傭せらるゝ勞働者の平均數は決して大なるものにあらずして、若しマルクスが其計表を構成した一千八百六十八年と一千八百九十九年との間に於けると同一の比率を以て棉花工業に從事せる勞働者の平均數が斷えず增加するものとしたならば各個工業に使雇せらるゝ勞働者の數が倍加するが爲めには約一世期の歲月を必要とす可く、而して工場總數は同一期間內に僅に一分五厘と云ふ殆ど注意するに足らざる割合を以て減少するに過ぎざる可きを指摘してゐる。

羊毛工業に就いて觀ると這般の論斷は更に一層明確と爲るのである、ベルンスタインは全大不列顚帝國內に於ける洽く各種の織物工場に對する工場檢察官の報告を引用して、若し同一增加の割合を持續したならば各工場に於ける使雇人の數が倍加するには約七十五年の日月を閱さなければならぬことを示してゐる。

這般の事實は產業集中の現象が眞に如何なる速力を以て行はれつゝありやを示すと共に、一般に想像せらるゝよりも遙に重要視するに足らず、且つ又毫も憂慮す可き性質のものにあらざるを敎へてゐる。

次いでベルンスタインは獨逸の例證を擧げて居るが、此例證は同國の統計が極て精密正確なる點に於て、且つ又獨逸は全歐羅巴諸國中一千八百八十年より一千九百年に至る二十年間に最も著しき產業上の進步を爲せる故を以て殊に價値の大なるものである。然も斯く急速なる產業上の發達を遂げ得たる獨逸帝國に於てすら其勞働者の大多數は尙ほ依然として小經營若しくは中經營に使雇せられつゝあるの事實を示して居る。尤も一千八百八十二年から一千八百九十五年に至るの間に於て普魯西國內の大工業に使雇せらるゝ工業勞働者の比例は二割八分四厘から三割八分に增加して居るが然も吾人は啻に此時期は全然例外と見る可きもので、大工業の發達は同帝國內の他の諸國では遙に遲緩であつたと云ふ事實のみならず、其時期を通じて小工業が毫も減少の傾向を表さなかつたことを認めければならぬ。大工業發達の傾向は小經營から勞働者を牽引したと稱するよりも寧ろ增大した人口を吸收したものと觀る方が適當である。元より大工業を滅絕せしむることが絕無であるとは稱し得ないが、然も幾多の場合に於て却つて其數を增加せしむるの事實を認めることが出來る。卽ち實際上大工業の發達は同時に又之と關聯附帶した幾多の小工業の發達を喚起するに至るの常である。而してベルンスタインは一千八百八十二年から一千八百九十五年に至る間に獨逸の大工業は長大足の進步を遂げたに拘らず、小工業に使雇せらるゝ勞働者の數は啻に同時期內に在つて減少せざるのみならず、明かに增加の勢を示してゐること

を指摘して居る。

彼は又計表を掲げて全獨逸帝國に於ける農業地所有の大さ及び數を示してゐる、是に由つて觀ると耕作地の四割五分は二十ヘクター若くは其以下の所有地であつて、相當な大さの所有地卽ち二十ヘクター乃至一百ヘクターの所有地を含めて云ふと、是等の二階級は全耕作地の殆ど三分の二（六割五分七厘八毛）に達してゐる、而して僅に殘る三分の一が大所有地に屬す可きものである。

ベルンスタインが吾人に敎ゆる所に據ると獨逸で大さに於ても數に於ても等しく增加の最大なるものは五ヘクターから二十ヘクターまでの所謂中所有地（元より斯くの如き小面積の土地に中所有地の名稱を附するのは多少誇大の嫌はあるが）である。之に次いで增加の著しいものは二ヘクターから五ヘクター迄の所有地で、二ヘクター以下の最少所有地は數は增加してゐるが、總面積の廣さは增加して居らぬ。他の階級に屬する所有地は其數に於ても總面積に於ても敢て減少もしないが、少しも增加の勢を示さずして全く靜止不變の狀態にあるのである。更に全獨逸帝國に代へて普魯西一國のみに就いて考へて見ても結果は殆ど同一で、唯だ小所有地の割合が大なるのみである。卽ち全國では殆ど國內に於ける全耕作地面積の四分の三が小百姓の小所有地と爲つてゐる。

斯くてあらゆる產業に於いて集中的の傾向は迅速に增加しつゝあるものであるとの主張に對してベルンスタインの到達し得た結論は下の如きものである。曰く「果して現代社會の破滅が社會階級の金字塔の頂點と底邊との間に立つて其中間階級を形成するものゝ消滅に基くものとしたならば、一果して是等の中間階級が彼等の上と下の兩極端に吸收せられることが社會破滅に取つて必要の前提であるとしたならば、實に此破滅の實現は英國に於いても、將た又獨逸に於ても十九世紀以前の時代に比して今日は些も接近して居らぬのである」と。

是れがマルクスやエンゲルスに養はれた新しい

社會主義者の意見である。彼は靜に事物の眞相を研究して其先輩の唱道した學說に修正を加ふるの必要を痛切に感じてゐる。

（九）

マルクスの主張した主義の內、他の重要なる點は彼の產業及び商業上の恐慌に關する學說である。彼は之れを生產の集中と結び付けて說いてゐる。其著資本論の第三卷に彼は書して曰く「總て經濟上に於ける恐慌の窮極の原因は、恰も社會に於ける消費の能力に制限なきが如く資本的生產は其生產力を增加せしむるの傾向あるに拘らず、社會の多數人民は貧窮にして其消費の高制限せらるゝに在るのである」云々と、ベルンスタインは此學說は曾てロードベルトスの唱道したものと殆ど相違する所のないことを注意し、而して彼は自ら「運輸及び交通の爲めに要する時間の著しく減少した事實と關聯して國際市場の地域が非常に廣大と爲つたことは大に經濟上に於ける動亂を相殺せしむることを得るの割合を增加しはしなかろうか、而して又歐洲の產業國民の間に於ける富力の巨大なる增加並に近世に於ける信用制度の伸縮自在なること及び產業上に於けるトラストの組織は同時に著しく一局部及び特殊の動亂の發生を減殺し久しく一般商業界の恐慌をして從前と同一の程度に於て發生することなきに至らしめはしなかつたらうか」との問を發してゐる。彼は更に之に加へて「投機は知り得可き事情と知り得可らざる事情との間の關係に由つて定まるものである。知り得可らざる事情が多ければ多い程投機は愈々盛に行はれ、之に反して知り得可き事情が多くなれば爲る程投機の行はる可き餘地は愈々狹少と爲るのである。資本主義の時代の初期に當つて商業上に於ける投機取引が甚だしく過度に行はれ、新たに資本主義的發達を見た國々に於て投機が常に激しい暴狀を呈するに至る所以は蓋し玆に存するのである。產業上に於ても投機の盛に行はれるのは特に新しい種類の生產業である。所謂流行品の製造を除いては如何なる種類の生產業と雖も其創始以後時日を閱す

るに伴れて益々投機的の性質は減少し、市場の狀況と變動とは益々之を支配することを容易と爲り、更に正確に之を豫知することを得る樣に爲るのである」と。

ベルンスタインの意見に據るとカルテル、トラスト及びシンヂヒケートの若しくは其他の企業家聯合は經濟界を攪亂するよりも寧ろ之を調整する効力大なるものである。而して彼は是等獨占的結合の恐慌に對する救濟作用を推賞した後、下の如く結論してゐる。「商業の回歸的及び部分的不振は元より避け難い所であるが、世界的大市場の組織成り且つ其範圍愈々擴張し、殊に生活必要品の生産が漠大なる增加を爲せるが爲に商業が一般に停滯不振の狀に陷るが如きことは事實あり得ないのである。就中此生活必要品の生産激增は吾人の問題に取つて最も重要なる要素である、恐らく斯くの如く地代及び必要品の價格を下落せしめ、經濟界の恐慌を變更し之れが蔓延を抑制する上に大なる貢獻を爲したものはないのである」と。由是觀之、

社會主義者が名けて「資本主義的」と稱する極めて有害なる社會制度の下に立てる文明國民の將來に關するベルンスタインの豫測は玆に再び確證せられて、經濟界の恐慌は資本主義を基礎とした現代の社會を破壞して大破綻に陷らしむるものであると主張したマルクスの學說は終に排斥せられたのである。特に注意す可きは最も激甚なる經濟的恐慌の起るのは幼稚な國家、卽ち社會主義者の常套語を用ゐると「其産業の非資本主義的なる」社會である。彼の印度若しくは露西亞に於ける回歸的の飢饉、又は一千九百〇二年の末にヒンスターの沿岸人民の間に其の主要産物たる鰮魚が著しく不漁であつたが爲めに發生して慘害を逞しうした恐慌の如きは皆這般の消息を傳へるものである。

（十）

マルクス及びエンゲルスの敎理に敎育せられ、殊に後者の遺鉢を傳へたベルンスタインは彼が虛僞の學說、詭辯で構成された大伽藍を毀拆したが爲に激烈なる集産主義者の爲めに背敎者として攻

擊せられた。彼は此攻擊に就いて自ら談つて曰く「プレカナウ氏が予を以て「科學的社會主義」の反對者中に加へたのは實に予が勞働者の地位を以て絕望なりと說くことなく、更に之を進步せしむることを得ると信じ、其他既に市民的經濟學者の確證せる數多の事實を承認するが爲めである。若し果して「科學」なる文字が純然たる「危怪の語」と云ふ意味であるならば、そは正に斯くの如く「科學的」といふ文字を使用した場合である。勞働者の狀態を全然絕望のものであると說いたのは今より凡そ五六十年以前のことである。一千八百三十年から一千八百五十年に至る頃の急進的社會主義者の著書中には悉く此種の文句が記載されてゐる。而して當時の事情を說明したものを見ると洵に斯くの如き悲觀的の言說は頗る正當のものであるが如くに見える。斯くてマルクスが其書「哲學の貧窮」に於て勞働者の生計最少費用は自然的給料を構成することを主唱し、マルクス及びエンゲルスが其「共産主義宣言」の中に「勞働者の狀態は産業の進步と共に上進するものにあらずして却つて斷えず下降し、勞働者は貧民となり、貧窮は人口及び財富の增加よりも更に急速なる發達を爲しつゝある」旨を絕對的に宣言し、エンゲルスの「階級爭鬪論」を讀む者が勞働者の狀態に最少の改善を見んと期待するは「市民的」國家の眼には常に「空想」として映ず可しとの言に接するのである。由是觀之、勞働者の地位の絕望なる一事は實に所謂科學的社會主義の動す可らざる公理である。同時に是等の主張と矛盾した事實を承諾することはプレカナウ氏の所言に從ふと卽ち這般の事實を確定した「市民的」經濟學者の足跡を辿ることに爲るのである」と。

十九世紀の初期に當つて産業集中の有害なる影響を訴ふる聲の高かつたのは元より當然のことである。而して曾て、ルロア、ボリューが其著「財富分配論」中に於て說明したが如く、當時に在つて幾多の煩累困難を叢生した所以のものは其變革の發生が餘りに不意で且つ其傳播が餘りに急速で

あつたが爲である、而して此不利な狀態は大抵は皆無で改善せられて終には消滅す可きものである。卽ち最も善く此時代を說明するものとして見る可きは此書中に使用せられた「大規模產業組織の混沌たる時期」と云ふ文字である。

社會は徐々に此混沌の狀態を脫して組織的のものと爲つた、然も組織の時代は未だ全く結了しては居らぬ、否或は永遠に結了するの期は無からう。是れ蓋し自由なる產業制度は之に固有なる無盡の改革力を有して居るが爲めである。マルクスが其書を著すに當つては此混沌たる產業の狀態に由つて誘起せられた幾多の害毒が彼に强い印象を與へて居つた。洵に彼の著書、就中其「資本論」に對して智識を供給した資源は主として此時期に起つた幾多の事件の調査であつた。エンゲルスは「資本論」第三卷(マルクス死後の出版)の序文中にマルクスに材料を供給した文書の表を揭げてゐる。彼曰く「マルクスは左記四種の議會に於ける報告書以外に參考に供した文書は極めて少數であつた。

(第一)一千八百四十七—八年、下院委員會報告、第八卷。商業不振、第二卷、第一編、商業不振なる表題の下に揭げられたる一千八百四十七—八年の「諺例細錄」。

(第二)一千八百四十七年、商業不振に關する上院秘密委員會報告。報告の印刷せられたのは一千八百四十八年、諺例の印刷せられたるは一千八百五十七年(諺例の印刷せられたるものは一千八百四十八年のものに比して餘りに互讓的なりと思惟せられてゐる)、千八百四十八年—五十七年C.D.。

(第三)一千八百五十七年、銀行條例に關する報告及び一千八百五十八年、銀行條例に關する報告。是等二個の出版物は一千八百四十四年及び一千八百四十五年の銀行條例實施の影響に關する下院委員會の報告並に其調査に際して與へられたる證左である。是等のものは、一千八百五十七年若しくは一千八百五十八年C.B.(又はC.A.)の題號を附せられてゐる。」

吾人は總て是等の文書を以て所謂大工業の混沌時代を說明したものと看做するに躊躇せぬ、殊に其內で最も重要な第一及び第二の報告は激烈な飢饉の影響と革命の爆發を以て有名な一千八百四十七—八年の報告であることを記憶せなければならぬ。恐らく之よりも範圍の狹隘なる觀察は他に之を求むることが困難であろう。而して斯く彼の採用した材料の範圍が如何に狹少で其性質が如何にも不完全である一事のみを以てしても現代の社會に對するマルクスの批判は其價値の大部分を失ふ可きことが明かである。

純マルクス主義の眞の代表者たるカウツキーも流石に十九世紀の初年を通じて英國の勞働者階級が異常なる窮迫不健全の狀態に陷つてゐたことを認めざるを得ないのである、而して之を認めると共に彼は魯かにも此時期に發生した事件に關するマルクスの觀察の價値を破却して了つた。彼は書して云ふ「一千八百十二年から四十七年に至るの期間は英國の賃銀勞働者に取つて最も悲慘な時であつた。エンゲルスが其「賃銀勞働者階級の狀態」に關する描寫の材料を得たのは此時代である。卽ち賤民階級が窮迫と罪惡の深淵に陷つた時代である。而して其肉體的及び精神的の墮落を抑制す可き勞働者に取て有利なる法制も、將た又有力なる勞働組合の運動も存在しなかつた時代である」と。然も是等の害惡は啻に賃銀勞働者保護の法規が缺如して居つたこと、若しくは勞働組合運動の存在して居らなかつた事實のみに歸す可きものにあらずして、主として機械使用に基いた產業の集中、殊に新條件の輸入が不意に行はれたことに基因して居る。其第一の結果は富有なる階級の富を增加し、貨物の生產費を減少し、之と同時に勞働市場に深甚なる攪亂を惹起するにあつたのである。全人民の根底を覆へし。次いで其生活狀態に急激なる變化を與ふるの一事は元より大困難を捲き起さなければ止まぬのである。然しながらそは幸にして過渡時代の出來事たるに過ぎなかつた。從つて吾人は單にマルクスやレルードンのみならず、フォン、

プオーシエーや長ブロンキー、さては或る範圍内に於てスチューアート、ミルの徒が試みた此時代の記述中に現るゝが如き事情は今や既に消滅して殆んど一の痕跡をも殘さず、斯くて又現在の產業狀態の上に殆んど何等の影響を止めて居らぬのを認めるのである。

更に激烈な集產主義者はベルンスタインを以て背敎者と看做して其罪を鳴らしてゐるが、同主義者中の領袖連中が彼に對する態度は餘程穩和である。而して彼等は元よりベルンスタインに反對はしてゐるが、然も彼は尙ほ自己の輿黨を多數有して居る同主義者との關係を棄却しては居らぬものと認めてゐる樣である。けれども彼がマルクス主義に對して最後の大打擊を加へたことは事實である。カウツキー自身も「所有者の數は久しく減少することなく、却つて增加しつゝあるものである」と云ふベルンスタインの鞏固な主張を引用して、スタットガルドの會議に於て悲痛な語氣で彼に說いて曰く「若し此事が事實であるならば、吾人が勝利を得るの時は啻に甚だ遠い將來と爲つたのみならず、吾人は全然吾人の目的を貫徹することを得ないであろう。若し果して增加しつゝある者は「資產家」の數であつて、「無資產者」の數にあらずとしたならば、吾人は常に社會改良の行はるゝ割合と比例して次第々々に吾人の目的から遠ざかりつゝあるのである。而して漸次自ら廢滅の域に向ひつゝあるものは資本主義にあらずして、社會主義たるの結果と爲るのである」云々と。

資本主義は個人と等しく社會主義に對する對照たるものにあらざるの一事を除いては、以上述べたカウツキーの所言は眞理に近いものである、公平にして精細なる觀察者は感情や無智の爲めに生じた獨斷的の法則及び人類同胞の幸福及び繁榮は有意的に其目的たるものでないと云ふ事實に拘泥せずして、漸次堅固と爲りつゝあるは社會主義にあらずして自由主義であるとを認むるのである。社會主義に對して眞に反對の地位に立つ敎理は個人主義に非ず、將た又資本主義に非ずして實は自由主義である。

（十一）

此「社會主義の前提及び社會民主黨の職分」と題したベルンスタインの著書の上半が特に注意するの價値を有するのは其獨創の新見に富んで居るが爲ではなく、全く之が生起した感情並に其公表の爲めに喚起せられた實際の結果に由るとは既に業に述べた所である。而して其後半は社會民主黨の使命を述べ、之を完ふするの手段を說いたものであるが、前半に比して遙に平凡なもので、彼の反對者例へばカウツキーの如きは殆ど全く之を閑却してゐる。ベルンスタインは現在の社會制度を顚覆せんとするの計畫を排斥し其希望を勞働者の聯合共同組合及び其他之に類似せる結合等其組織の成立に强制を必要とせざる團結に懸けてゐる。彼は又所謂都市社會主義として知られたる元來マルクスの集產主義とは根本から相違して居る時宜主義者流の提言を推賞してゐる。

一千九百一〇年にベルンスタインは「如何にして科學的社會主義は可能なりや」と云へる小冊子を著し、公々然とマルクスの敎理に與へられた科學的の性質を否定した。彼は餘剩價値の學說は社會主義の科學を構成したものであるとの主張は全然破壞せられたと主張した。彼は又マルクス及エンゲルスが其理想社會の實現を「日一日と明亮に爲りつゝある資本的生產制度の破壞の上に」求めつつあるの誤謬を指摘し、事實上破壞の狀態に陷れるものは資本主義的社會組織にあらずして、却つて社會主義の採用せる諸般の定理であるとを示してゐる。彼曰く「今日では果して資本主義的生產法の最後は大破壞を見るのであろうか、此大破綻は果して近き將來に於て望むことが出來るものであろうか、而してそは必然社會を社會主義に導くものであろうかと云ふとを見出すのが問題である。此問題否、寧ろ是等の諸問題に對して從來社會主義の與へた解答は甚だ區々にして一定して居らぬ。予は玆に專ら所謂「勞銀鐵則」の運命を追想するに止め樣と思ふ。此法則は云ふまでもなくラ

サールが多數民衆を振起するが爲めに用ゐたもので、未だ曾つて斯くの如く確く深い信念を以て承認せられた經濟學說は恐らく他に無いであろう。久しく此法則は勞働階級の運動に對する號令であり、最も剛毅勇敢な戰士の奮鬪力を回復せしめる旗印であつた。然しながら殆ど殘忍に近い程正確に此「法則」は眞の「法則」でないと云ふことが確證せらるゝの時期が到達した。換言すれば勞銀鐵則は毫も科學的の基礎を有するものでないことが明亮と爲つて、吾人の綱領の內から之を除去せざるを得ない時が來たのである。斯くて之が爲めに悲む可き內抗を生じて數多の戰士は新しい學說の前に兜を脫いで之を承認したと云ふ事實が眞であるとしても吾人は之を如何ともすることが出來ぬのである。今日に於ては此法則は最早何等の力を有せず何人も之を口にすることなく、遠く〳〵吾人の心胸を離れたのである」云々と。

グレーン、エレベーター

明智瀧郎

輓近本邦に於ける倉庫業の發達は漸く其面目を更め、關西に於ける倉庫の如き其規模を擴張して海陸聯絡の設備を完うし、貨物の吸收を努むる蓋し昔時の比にあらず、然れども倉庫保管貨物の重用部分を占むるものは原料品及農產物にして。殊に農產物の大集散地には倉庫業の發達。盛んなるは明かなり。北米合衆國、英領加奈太等の農產國が大規模の倉庫を備へ、新規の設備を有するは、取引の關係、勞銀の高率等の事情もあるべきも歸する所は農產物の集散盛んなるが爲なり。吾儕は此に倉庫業發達の一端を寬はんが爲めグレーン、エレベーターについて述べんとす。

元來、grain elevator なる語は字義の如く穀物昇揚器に外ならずして、英歐に於ては此意義に用ゐらるゝも亞米利加に於ては其意義は擴張せられ倉庫の昇揚器は不充分のものとなり總稱してグレーン、エレベーター、エレベーターと云ふ。故に換言せばグレーン、エレベーターとは穀物保管の爲に特別設備を施せる倉庫なり。

露西亞も農業國としてグレーン、エレベーターの施設存するも北米に於けるものに比すれば稍や遜色あり。

吾儕は加奈陀、太平洋鐵道會社がオンタリオ州ポート、ウイリアム(Fort William, Ontario)に於ける大規模なるグレーン、エレベーターに付き其設備及手續の一般を述べ之が概念を與へんと欲す

先づ貨主が或停車場よりポート、ウイリアムに穀物輸送をなすときは(加奈陀太平洋鐵道會社は穀物散荷輸送に際しては一貨車以下は之を受けず)鐵道會社代理店は貨主に穀物積出受取書(Grain Shipping Receipt)を與ふ。

CANADIAN PACIFIC RAILWAY COMPANY

GRAIN SHIPPING RECEIT

.....Station.....1910

Received in bulkLoaded in Car No.....
on and subjet to the tariff of the C. P. R. C.,
Lerein called the company, & to the payment of
all tolls & charges thereby & under the terms &
contract mention ed on this & the other side(and
which are on from the terms of the Consignor's
Request to ship)
from.....(consignor)
.....Bushels of.....
Said to weigh.....lbs.
Consigned to..... order
at Fort William

.....Agent C. P. R.

而して此受取書は貨主の裏書により流通性を有し大約券面數量により運送中の穀物は取引せらるゝものなり、貨車ポート、ウイリアムに着するときは加奈陀政府の檢査官により檢査せられ小麥は格付表に從つて格付せらる、會社は格付決定後エレベーターに輸送す。加奈陀太平洋鐵道會社はポー